

平成21年度 茨城県立水戸農業高等学校自己評価表

目指す学校像	知・徳・体を身に付けた有為な人材を育成する学校。生徒一人一人の進路希望の実現を支援する学校。魅力ある農業教育を実践し、将来の農業経営者・関連産業技術者を育成する学校。体験学習・国際交流等を通してコミュニケーション能力を磨ける学校。地域社会の機関・団体・住民等と連携するとともにそれらに開かれた学校。				
	昨年度の成果と課題	重点項目	重点目標	達成状況	
	<p>[昨年度の成果]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 躰教育を実践したことで、徐々にではあるが基本的な生活習慣の確立に向けた前進がみられた。 ・ 教師自らが、それぞれの授業をこれまで以上に大切にしよう心がけたことで、生徒の授業への興味・関心を高めることができた。 ・ 各科、学年、進路指導部等が一体となった進路指導の確立がある程度実践できた。 ・ 近隣の児童生徒への農業体験学習の指導や保護者向けの解放講座等の実施など、開かれた学校づくりに努めたことで、農業教育の普及に貢献できた。 <p>[本年度の課題]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 分かりやすい授業を心がけ、授業への積極的な参加を促す。 ・ 1年次から系統的な進路指導体制の確立を図る。 ・ LHRを利用して進路情報を適切に提供する。 ・ インターシップ等、職業体験活動の参加数を高め、望ましい職業観の育成に努める。 ・ 道徳教育を中心に、各教科指導を行う中で、規範意識を高め、特別指導件数を減らすよう努める。 ・ 生徒会活動や農業クラブ活動を活発にし、他校との交流などにより、魅力ある学校行事を実施する。 ・ 1年生の部活動全員加入を実施する。 ・ 実験実習を通して、生命・農業・環境への関心を高める。 ・ 資格取得を奨励し、学習意欲の向上を図る。 ・ 全生徒で農業クラブ全国大会の準備・運営に当たり大会の成功を期する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 基本的な生活習慣の確立 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 挨拶の励行や身だしなみを整えるなど躰教育を実践し基本的な生活習慣を確立させる。 ・ 生徒指導内規の見直しと徹底を行う。 ・ 道徳教育等を通して、豊かな人間性や素直な心を育む。 ・ 校則の遵守を推進するなど遵法精神を育成すると共に規範意識を高める。 ・ 時間を大切に、規則正しい生活ができるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 反復指導で基本的な生活を身につけた生徒が増えた。 ・ 体験的学習で、素直で豊かな心を育む生徒が増えた。 ・ 生徒指導内規の見直しは十分でなかった。 	
		<ul style="list-style-type: none"> ・ 基礎学力の向上 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 授業時間を大切に、授業研究を怠らず、授業の質的向上を図る。 ・ 学力差のある生徒に対する学習指導の在り方についての研究授業や公開授業に積極的に取り組む。 ・ 自ら学習に取り組む習慣を育成する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 生徒の授業に取り組む姿勢は良くなっている。 ・ 公開授業を気軽にできる体制作りが必要である。 	
		<ul style="list-style-type: none"> ・ 系統的な進路指導と指導体制の確立 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 生徒の進路希望に沿った自己実現のために適切な支援を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 支援体制の強化が必要である。 	
		<ul style="list-style-type: none"> ・ 特別活動の活性化 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 運動部・文化部等の加入率90%を目指し、魅力ある楽しい活動を推進する。 ・ 成達会等の自主的活動を推進する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 部活動加入率が目標に達しなかった。 	
		<ul style="list-style-type: none"> ・ 健康と安全教育の充実 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 健康管理、交通安全、機械や農薬事故等の防止など、安全教育の充実を図ると共に危機管理、防災、不審者対応などのマニュアルの再点検を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 感染症への対応が適切であった。 	
	<ul style="list-style-type: none"> ・ 農業教育の充実 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 先進校視察や農林水産部との連携により農業技術力を向上させることで農業教育の活性化を図る。 ・ 特色ある学校づくり支援事業の取組みを推進することで、農業後継者の育成を図る。 ・ 全国農業高等学校アクションプラン「エコロジカル・アグリハイスクール」宣言に基づいた行動と実践を行い、その検証と評価を行う。 ①基本的な農業技術能力を持つ人材を育成する。 ②食の安全・安心教育を推進する。 ③奉仕体験活動を積極的に推進する。 ④環境教育を推進する。 ⑤開かれた学校を目指し、農業教育普及活動を展開する。 ・ 農業クラブ全国大会の準備・運営を通して、農業クラブ活動の活性化を図る。 ・ 資格取得試験の合格率の向上を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 農林水産部等との連携事業により、就農志向者の意識が向上した。 ・ 本県で開かれた農業クラブ全国大会は大成功の内に終了することができ、農業クラブの活性化にも繋がった。 		
評価項目	具体的目標	具体的方策	評価	次年度（学期）への主な課題	
教務部	教育活動が円滑・効率的に機能するような取組み	10年後の水戸農業の在り方の検討 授業に対する取組み方の見直し 学習環境の整備改善 定期考査（実力テスト）を受ける体制の整備 教育課程の諸課題に関する研究 情報の共有化に関する研究	B B B A B B	B	<ul style="list-style-type: none"> ・ 10年後を見据え今やるべきことを明確化する。 ・ 10年後を見据えた教育課程の検討。 ・ 学習意欲の向上へ向けて、生徒の意識を変える工夫をする。 ・ 授業の工夫を呼びかける。 ・ ホームページ、キャンパスガイド、中学校訪問、水農体験等広報活動につながりを持たせる。 ・ 誰でもいつでも使えるよう学校情報、教材の共有化を図る。
	基礎学力の向上	学習評価基準の充実 授業内容の充実と授業研究（特に教室内でのIT機器の活用） 成績向上プランの策定実施	B C B		
	広報活動の充実	ホームページ等の充実 中学校訪問の充実	B A		
生徒指導部	基本的な生活習慣の確立	立哨指導・登校指導・毎月の全体指導を通して挨拶の励行や身だしなみを整える。 規則正しい生活ができるようにし遅刻者を減らす。 農ク全国大会の成功を目指して一人一人のマナーアップを図る。 生徒相談員の助言をもとに生徒指導内規の見直しと徹底を図る。	A B B C	B	<ul style="list-style-type: none"> ・ マナーアップの向上を図る。 ・ 遅刻防止対策を徹底する。 ・ 制服着用を徹底（身だしなみの励行）する。 ・ 立哨指導（昇降口・後台駅）を継続する。 ・ バイク通学違反の指導（ヘルメット等） ・ 喫煙防止指導を徹底する。 ・ 盗難防止指導を徹底する。 ・ 授業中の携帯電話指導を徹底する。 ・ 制服を見直す。 ・ 教員の共通実践を図る研修会を設ける。
	安全教育の充実	バイクや自転車の安全運転の励行と点検等により事故防止を図る。 家庭や地域、関係機関との連携を深めて登下校の安全確保を図る。 貴重品の管理や施錠の徹底を励行して盗難防止を図る。 校則の遵守を推し進め規範意識を高める。	B B B C		
	心の教育の充実	教育相談の充実を図る。 道徳教育を中心にモラルや思いやりの心の育成を図る。 ボランティア活動・交流活動・体験活動等を推進する。 本校の教育活動全般を通して命の大切さを再確認する。	B B A A		

	具体的目標	具体的方策	評価	次年度(学期)への主な課題
特別活動部	部活動の活性化	1年生全員を部活動に加入させる。 活動の成果を高めるためのリーダー育成と環境整備の充実に努める。 スポーツ推薦の導入によって運動部活動の活性化と競技力向上を目指す。	C B B	B ・部紹介、見学会等に工夫を加え、部活動加入率アップを図る。 ・生徒が積極的に参加できる行事内容にする。 ・学校行事の中に委員会活動を取り込み、活性化を図る。
	学校行事の充実	文化祭(水農祭)における生徒主体の計画立案と会場の環境整備を図る。 各種学校行事への積極的な参加を通して、生徒に達成感を体験させると共に、クラスの連帯意識を高める。	C B	
	生徒会活動の充実	ボランティア活動など地域と連携した自主的、実践的な活動を図る。 ホームルーム活動、学校行事との連携を深めた各種委員会活動の充実を図る。	B C	
進路指導部	系統的な進路指導の充実 (生徒が、主体的に進路選択ができる指導・援助)	3年間を見通し、ホーム・ルームでの進路指導の充実を図る。 系統的計画に基づいた各学年別の進路講話、進路ガイダンス、面談等の充実を図る。 各種の進路情報を収集し、積極的に提供する。 資格取得を推進する。 進路指導部の係分担を明確にし、学年等との連携を図り、組織的体制づくりを目指す。	B B C A C	B ・LHRの時間において「進路の手引き」書の活用を図る。 ・1年次からキャリア形成に関する様々な情報提供及びガイダンス等を積極的に導入し、卒業後の進路選択・決定に必要な力をつけさせる必要がある。 ・経済不況下では企業訪問等の早めの就職対策が必要である。 ・不況による未就職者がいるので、継続的に対応する。
	進学指導の充実	AO入試小論文対策、作文・レポートの対策と面談指導に努める。 進学対策のための課外授業の実施。	B A	
	就職指導の充実	進路実現のため模擬面接、履歴書の書き方、礼状の書き方等の指導を行う。 積極的に企業開拓を行うと共に就職情報の提供に努める。	B A	
	勤労観・職業観の育成	インターンシップ、進路講話、体験型ガイダンス等の充実を図る。	B	
保健厚生部	生徒の健康安全に関するすべての管理運営	健康診断を実施するとともに、保健日誌から生徒の健康状態を把握する。	B	B ・感染症対策マニュアルの作成など、生徒の健康管理を充実させる。 ・指導・監督の徹底を図り、学校環境衛生に努める。 ・教職員及び生徒の危機管理意識を向上させる。
	校舎内外の学習環境の安全と美化	清掃区分の明確化及び担当教員による指導・監督の徹底に努める。 校内美化の徹底及びごみ分別の徹底と減量化に取り組む。	B B	
	防火防災に全力を尽くすと共に、災害防止に関する態度の涵養	緊急時の避難訓練を実施する。 消火器訓練を実施する。	B A	
図書部	本校の教育目標に応じた学校図書館作りの研究	農業教育の専門学校として関係書類の整備に努める。 本校の文化センターとしての役割を果たすために、図書・視聴覚資料の整備に努める。 職員研修の成果として、紀要の発行を検討する。	A A A	A ・図書館利用者数を増やす。 ・視聴覚室の空調設備を整備する。 ・紀要の発行形態を検討する。
	学校図書館を利用した教育の充実	教科指導とつながりをもった教育資料の充実に務め、授業・自主学習の支援をする。 校内読書感想文コンクール、図書委員研修会等の行事の開催や広報誌の発行により、各種情報の収集と発信に努める。 図書委員会活動を活発にして生徒の読書活動の活性化を図り、図書館利用者を増やす。	A A B	
	視聴覚機器の充実と視聴覚を利用した教育	授業での利用を優先しつつ、広く教育活動の場として提供するように努める。	A	
	学校図書館の施設・設備の充実	視聴覚室の空調設備を整備する。	B	
	蔵書のデータベース化をより進める	9類の処理を完了する。	A	
渉外部	P T A 総会の成功	案内文書を各家庭に送付し、周知させる。 役員会、運営委員会で十分に議案を審議する。	A B	B ・引き続き参加率を高める努力をする。 ・2学期にも運営委員会を実施する。 ・支部活動については改善策を検討する。 ・HPを利用してP T A行事のPRをする。 ・水農祭に多くの会員で参加する。 ・1年間の反省をきちんと行う。
	P T A 支部活動の活性化 (1) 支部総会、支部集会の活性化 (2) 校外生徒指導の実施	本校を会場として支部総会、支部集会を開催する。 出席率を高める呼びかけをする。 参加依頼並びに実施日を通知し、多くの会員の参加で実施する。	B B B	
	主催行事の充実	HPを利用して、公開講座・講演会等の参加を呼びかける。 P T A と協力して水農祭を盛り上げる。	C B	
農場部	資格取得の合格率の向上を図る。	合格率向上に向けた課外学習の取組みなど、指導体制を充実させる。	C	B ・プロジェクト活動を充実させる。 ・基礎・基本の確実な習得を図る学習活動を展開する。 ・担い手育成事業の充実と体験学習の推進を図る。 ・品質の向上と安全性を考えた農産物の生産に取り組む。 ・環境教育を充実させる。 ・安全教育に継続的に取り組む。
	農業クラブ活動の活性化を図る。	プロジェクト活動を推進し、生徒の自主的・主体的学習の深化を図る。 農業クラブの各種発表や競技種目に意欲的に取り組ませる。 農業クラブ全国大会の運営の準備を推進する。	C B A	
	「エコロジカル・アグリハイスクール宣言に基づいた行動」 ①基本的な農業技術能力を持つ人材の育成	各学科の専門に関する知識・技術の学習を通して、基礎・基本の確実な定着を図る。 農業担い手育成事業を充実させるとともに、デュアルシステム事業に取り組む。	B B	
	②食の安全・安心教育の推進	安全で質の高い農産物の栽培に取り組む。	A	
	③奉仕体験活動の積極的導入	農業機械、実験・実習器具の安全な操作や、適切な農薬の使用など、安全な学習の徹底を図る。	B	
	④環境教育の推進	校内環境の美化や、地域連携活動の一環として草花の苗等の配付活動を継続する。 環境に負荷をかけない農産物の栽培に取り組む。	B C	
⑤開かれた学校を目指すとともに農業教育の普及活動の展開	幼稚園児や小学校児童に対し、農業体験活動の指導・援助の学習を展開する。	B		

評価項目	具体的目標	具体的方策	評価	次年度（学期）への主な課題
事務部	授業料の滞納の解消を図る。	学年・担任との連携のもと、授業料滞納者の減少を図る。	C	B ・滞納者の解消に努める。 ・環境整備に努める。 ・特に節電に努める。 ・環境保全の具現化に努める。 ・最小の予算で最大の効果が上がるよう、なお一層の努力をする。
	環境整備に努める。	施設が老朽化しているため、予算を確保しながら修理・修繕に努める。	B	
	経費の節減に努める。	予算削減の折、職員・生徒の意識の高揚により節電、節水に努める。	B	
	環境保全の具現化の一助に努める。	業務用消耗品（事務用紙類）は再生紙を購入し、環境保全の役目を担う一助とする。	B	
国際教育委員会	予算の有効活用に努める。	緊縮財政の折、限られた予算で最大の効果が上がるように努める。	C	B ・事前指導、準備、計画のより一層の充実を図る。 ・インフルエンザへの対応策を十分検討する。 ・本校の国際交流の在り方を検討する時期に来ている。
	タイからの生徒受け入れに万全を期す。 ニュージーランドへの派遣を実施し交流を深め、国際感覚を身につける。	早期に受け入れ準備、募集を開始し、その内容を検討、吟味し、充実した体制をつくる。	A	
	国際交流は、自己の実力の向上に支えられて充実したものになることを認識させ、学業の充実を図る。	普段の授業や実習などの学校生活を大切にし、高校生としての生活の充実を図る。	B	
ネットワーク委員会	派遣前の事前指導を充実させる。	語学学習を充実させ、相手国の理解を高めると共に、日本文化の理解を深める。	B	B ・ホームページの定期的更新する。 ・ネットワーク及びPCのセキュリティを強化する。
	ホームページの全体的な整理を行う。	各部・学科との情報交換を密にし、必要な容量を割り振る。	B	
寮務委員会	校内ネットワークの保守点検を定期的に行う。	現状のネットワークを整備し、セキュリティの向上と効率化を図る。	B	B ・アンケートをもとにした改善点について検討してきた。来年度も引き続き食事面・施設面の充実を図る。 ・保護者宿泊研修会の改善点を検討し、多くの保護者が参加できるよ、案内の発送を早するなど工夫をしていきたい。
	基本的な生活習慣を身につけさせる。	規律ある共同生活を通して、挨拶を励行し、時間を守る態度を育て、自主・自立の精神の確立を図る。	B	
	集団生活のルールを身につけさせる。	週番活動や清掃当番を責任を持って遂行させ、相互協力の精神を高める態度を育てる。 寮内外の行事や部活動を通して、意欲的・積極的に参加する心構えを養う。 当番実習（動植物の愛育の心、生命への尊厳性の理解）、宮農講話（OB・優良農家など）、資格取得学習の充実を図り、農業や自然環境を重んじる態度を啓発する。	A B B	
	家庭・地域との連携を図る。	保護者の宿泊研修会（講演会・寮体験）や寮協力委員会を充実させて、生徒の理解や社会教育面の充実・強化を図る。	B	
1 学年	基本的な生活習慣の確立	欠席・遅刻・早退が増えないよう家庭との連絡を密にする。 身だしなみ・言葉遣い・挨拶の励行など、健全な精神の育成に努める。	A B	B ・基本的な生活習慣を確立する。 （特に服装頭髪指導の徹底） ・全体指導のあり方を工夫する。 （学校行事や集会時の心がまえ・姿勢） ・進路意識の高揚を図る。
	学習への取り組み姿勢の向上	授業中の私語、携帯電話使用を厳しく指導する。 基礎学力の向上と進路意識の高揚に努める。	B B	
	集団生活におけるモラル向上と活動の活性化	相手の気持ちを理解できる友愛心の育成を促す。 学校行事・LHRでの積極的取組みとクラスの団結心の育成に努める。	B A	
2 学年	基本的な生活習慣の確立	服装頭髪や時間・規則などを守り、高校生としてふさわしい言動がとれるようにする。 保護者との連絡を密にし、理解と協力を得て、早めの指導を行う。	B A	B ・引き続き、身だしなみをきちんとできるようにしていく。 ・進路への意識をさらに高め、希望実現に向けて早期に取り組めるようにする。
	進路実現に向けての取組み	日々の授業の大切さを理解し、落ち着いた態度で授業に取り組めるようにする。 面接や進路ガイダンスを通して、進路意識の向上を図る。 資格取得を推奨し、たくさんの資格を取得できるようにする。	B B B	
	団体行動の適正化	集団生活の中での自己責任や思いやりの気持ちが持てるようにする。 修学旅行や学年集会等の行事を通して、集団の一員として適切な言動がとれるようにする。	B B	
卒業学年	基本的な生活習慣の定着	状況を適確に判断し、規範を守り善悪の判断が出来る生徒を育てる。 服装・頭髪的身だしなみを整え、場に合った挨拶や返事が出来るようにさせコミュニケーション能力の向上を図る。 感謝や謝罪の気持ちが常にもてるように日々の学校生活で心の育成を図る。 保護者とは適宜連絡を取り、学校生活に支障のないよう協力を得る。	B B A B	A ・服装頭髪指導での早期改善を図る。 ・進路意識の低い者に対する指導の在り方（学習意識や規範意識）を工夫する。 ・状況判断の甘い生徒への対応を考える。
	全員の卒業と進路の決定	適性を知り進路の実現に向け早期の対策を立て、様々な機会を利用して啓蒙する。 学科・教科等の協力を得て課外や入試対策の指導に力を入れ目標に向かって努力させる。 基礎学力の向上と個々の進路実現に向けた取組みの強化を図る。	A B B	
	生徒との面談を多く行い、生徒の希望実現に取り組む。	生徒との面談を多く行い、生徒の希望実現に取り組む。	A	
	団体への帰属意識と社会規範の確立	集団の中で相手の気持ちや立場を考え、責任ある言動がとれるように考えさせる。 所属集団の一員としての自覚を持たせ、他学年の模範となるような生活をさせる。	A A	
農業科	農業教育の充実	魅力ある農業教育を展開し、農業や自然環境を重んじる態度を啓発する。 農作物の育成を通して、思いやりや環境への関心を高める能力を育成する。 専門教育学習（プロジェクト）を推進する。	B B A	B ・地域に期待される農業教育を実践する。 ・地域社会に貢献できる人材を育成する。 ・規範意識の高い人材を育成する。 ・学習環境の安全と美化を図る
	基本的な生活習慣の確立	挨拶を励行し、時間を守る態度を育て、自主・自立の精神を涵養する。 授業に臨む心がまえや授業態度を向上させる。	B C	
	学習環境の安全と美化	更衣室等の清掃区分を明確化し、教員による指導・監督の徹底に努める。	B	
		実験実習教室内外の美化及びごみ分別の徹底と減量化に取り組む。	C	

評価項目	具体的目標	具体的方策	評価	次年度（学期）への主な課題
畜産科	授業に臨む態度や授業態度を向上させる学習環境づくりをする。	授業、実験、実習の開始時整列、返事、服装等きちんとした態度で学習させる。実験実習の準備から展開、後片付けまで生徒の実験実習における自主的参加を図る。	A B	A ・施設の充実を図る。 畜産実験実習棟の立て替え 女性更衣室・糞尿処理施設の新設 ・伝染病予防対策と地域社会への牧場開放の両立を図る。 ・畜産科の地域への広報活動を強化する。
	生き物、生命に触れるなどの体験教育を推進し実践する。	主体的、創造的に家畜や動物に触れ、生命を感じる教育を実践する。 (分婣管理実習、解剖、解体実習の活用、畜体の測定、動物の運動、食品の加工)	A	
	新しい科目の充実とわかりやすい授業を展開する。	課題研究において、一人一人の目標にそった課題の設定や内容の充実を図る。 専門科目の内容の特色を出し、資格取得の目標を持たせるなど教育内容の充実を図る。	A B	
	牧場を地域社会へ開放する。	牧場を地域社会に積極的に開放し、教育活動の活性化を図る。	A	
園芸科	わかりやすい授業展開	専門科目学習における教室授業と実験実習を一体化し、意欲的に学習する態度の育成を図る。	B	B ・来年度開催される産業フェアフラワーアレンジメントコンテストの成功に向けて準備・生徒指導を計画的に実施する。 ・プロジェクト学習の指導を継続的に行い、専門的な知識・技術の定着を図ると共に、実社会に必要な考え方・ものの見方を身に付けさせる。 ・教科指導の中で倫理観を養う指導を行う。 ・新カリキュラムについて、学科内で検討し、学科の特徴を出せるようにする。
	園芸作物の栽培技術の習得	プロジェクト学習の取組みと、育苗から収穫までの栽培管理実習の強化を図る。	B B	
	農業クラブ全国大会への積極的な参加	農業クラブ全国大会へ積極的・主体的に参加し、準備活動、当日の運営を通して責任感や勤労の精神を育成する。	A	
	プロジェクト活動・課題研究発表会の充実	課題研究・学校農業クラブ活動での1人1プロジェクトの取組み。 課題研究発表会で、意欲的に発表することができるまでのきめ細かな指導の徹底。	B	
生活科学科	自産自消、旬産旬消、地産地消という考えを基本にして「つくって食べる」という食農教育を推進する。	年間60品目以上の作物をつくり、自給の体験を通して生きるということの本質を理解する。	B	B ・生徒が主体的に学習に取り組む姿勢が少なく、教員主導の学習となってしまった。 ・生徒が主体的に学習に取り組む姿勢を育むよう「課題研究」等の見直しをしていきたい。
	自立した生き方、本来あるべき生き方を探求する。	1年 「作物を栽培して、それを食材として調理・加工して食べることに興味を持ち、食べることを理解する。 2年 栽培管理ができるようになることを通して、自信と誇りをもつ。 3年 自ら課題を設定して解決し、自立した生き方につなげる。	B B B	
	基本的な生活習慣の確立	規則正しい生活を送り、社会人として必要な礼儀、基本的な生活習慣を身につけさせる。節度ある授業態度を身につけさせるとともに、学習の基礎基本を充実させる。	B B	
農業土木科	資格取得教育の推進	専門教科に於ける資格が取得出来るように、指導の徹底と充実を図る。	A	B ・社会で必要とされる人材を育成する。 ・基礎学力の定着を図る。 ・資格取得の高揚を図る。
	進路指導の充実	生徒の希望する進路実現のため、進路開拓や継続した指導を展開する。	A	
	専門教育の充実	実験・実習等の系統的理解を深めるために実験・実習指導書等を前年度より改良作成し、また、教室授業と実験実習を一本化することで指導内容の改善に努める。	A	
食品化学科	体験学習の意欲向上及び環境整備	農業クラブ活動でのびのびとプロジェクト学習が出来る環境をさらに充実させる。課題研究発表会を学科全体で実施することで生徒の取組み意識・意欲を高める。	A	A ・常に改良を重ね、わかりやすい指導書の作成を心がけていきたい。 ・十分に達成できているが環境整備を継続したい。 ・ボイラーに関しては充実しているが、ワープロ・危険物指導には継続的な計画・実施の為の改善が必要である。 ・学科図書を進路コーナーを更に充実させていきたい。 ・変化する生徒の状態に合わせ安全教育を徹底していきたい。
	資格取得の支援	課外授業等を実施し、資格取得の合格率の向上を図る。 資格取得意欲向上のため、学習意欲の低い生徒に対し、個別指導により基礎的な力を身につけさせる。	B B	
	進路指導の充実	常に進路相談ができる環境づくりを心がける。	A	
	実験・実習を通して安全教育の徹底及び基本的な生活習慣の確立	授業・実習中の安全教育を徹底し実践する。 教室授業、実験・実習それぞれの場面に応じた服装や時間の管理を徹底させる。	A	
農業経済科	意欲的な授業参加	毎回、授業開始時に携帯電話の扱いや服装について注意を促しケジメをつけさせる。教室や実習等の整理整頓に心がけ授業に集中する環境を整える。	B B	B ・基本的な学習習慣を定着させる。 ・意欲的な資格取得への取り組み。 ・進路意識を高揚させる。
	専門教科の充実	資格取得を通して自信とやる気を持たせる。 農業クラブ全国大会での取組みを通して責任感を持たせる。	B A	
	上級資格の合格率アップ	個別指導により不得意な箇所を認識させ、反復学習させる。 早めに各種検定の課外を実施し、合格圏の生徒を増やすことで学習意欲の向上を図る。	B B	
定時制農業科	確かな学力を身につけさせる。	学ぶことの楽しさや達成感を味わえるような授業展開を心がける。 基本的な学習態度の育成を図る。 個の能力に応じた指導により、基礎学力の向上に努める。	B A B	B ・教材を精選し、基礎学力を身につけさせる授業展開を行う。 ・保護者や出身中学校と密接に連絡を取り生徒理解に努める。 ・進路意識を啓蒙する取り組みを学年毎に企画・立案し、進路指導の充実を図る。 ・インターンシップ等、生徒が自分に自信を持つことができる体験活動を充実させる。 ・定時制大会に向け積極的な取り組みを行う。 ・常に元気なあいさつが交わせる明るい生活環境をつくる。
	生徒理解の充実	生徒・保護者との面談機会を確保する。 生徒理解の共有化を図る。	B A	
	進路指導の充実	ホームルームや道徳の時間を中心に、自己の将来を見つめさせ、その展望を考えさせる。 アルバイト等の社会体験を通して、早期から進路意識を啓蒙する。 生徒・保護者へ進路情報の提供に努める。 ハローワークとの連携を密にし、進路実現に努める。	A B B B	
	体験学習の充実	ボランティア活動への参加を促すことで、コミュニケーション能力の向上を図る。 社会人講師等による体験型学習を展開し、職業への関心・意欲を高める。 生徒の就業体験(インターンシップ)を推進し、望ましい勤労観・職業観の育成を図る。	A B A	
	健康や体力を育む教育の推進	部活動等に積極的に参加出来る環境づくりに努める。 定通体育大会や生活体験発表会等への積極的な参加を奨励する。	A B	
	基本的な生活習慣の定着と規範意識の高揚	「みそあじ」運動を展開する。朝の立哨指導であいさつ運動を実施する。 「ダメなことはダメ」の指導の徹底と自己抑制力の涵養を図る。	B B B	

評価項目	具体的目標	具体的方策	評価	次年度（学期）への主な課題
国語科	基礎学力の向上	机間指導や、課題提出により生徒の学習状況を把握し、わかりやすい授業の確立を目指す。 生徒の能力、適性、興味・関心に対応した教材作り、教材選びの工夫を図る。 小テストやプリントを活用し漢字、言葉の理解の定着を図る。	B B B	B ・基礎学力を向上させる。・興味関心の喚起に努める。（上記2つのための教材作りや選定を行う） ・進路対策の充実を図る。（表現力をつけるための指導を強化する。）
	作文力の向上（進路対策）	放課後や休み時間を利用した個別指導をする。 読書感想文の指導を通し、自分の考えを文章にまとめる力を育成する。	B C	
地歴・公民科	我が国及び世界が形成される歴史的過程・地域的特色及び現代の社会について理解と知識を深め、国際社会に主体的に生きる民主的、平和的な国家・社会の一員として必要な自覚と資質を養う。	新聞や視聴覚教材など多種多様な教材を用いながら、授業内容を分かりやすく伝える工夫をする。 基本的な事項・事柄を精選してそれぞれの科目の特長を生かした指導内容を構成する。 授業に臨む姿勢をつくるために、ノートや補助教材を準備させることはもちろんのこと、携帯電話の扱いについても注意を払う。 ノート提出等を定期的実践し、生徒が主体的に授業に取り組めるように指導する。	A B B	A ・よりわかりやすい授業の在り方を模索し、生徒の実態に応じた授業方法を工夫する。 ・単に板書を写させるだけでなく、情報の整理を念頭に置いたメモの取り方を工夫させる。 ・教材から情報を読み取る力を陶冶する。
数学科	基礎学力の向上	基礎・基本を定着させるため、生徒の実態に沿った授業を展開する。 早朝・放課後の課外を実施し、多様な進学希望に対応する。 基礎学力が定着していない生徒へ充実した個別指導を実施する。	A B B	B ・授業公開週間の実施。（指導力の向上） ・基礎学力が未定着の生徒への更なる指導。（年々学力の低下が感じられるため） ・数学検定と連動した課外を実施する。（資格取得）
	数学検定資格取得の奨励	年3回の実施により、学習意欲を高め、資格取得を積極的に促し、課外や個別指導を実施する。	B	
	教員の指導力の向上	授業公開週間(Math Week)を設けて、自己研鑽に努める。	C	
理科	基礎学力の向上	内容を精選し、知識の理解・活用に重点を置く。クラス全体の学力の底上げに時間をかける。	B	B ・各学科の学習内容と関連した授業内容を精選する。 ・本校生にあった教材を作成出来るように努力する。 ・個別指導の更なる充実を図る。
	興味・関心の向上	具体的事象と結びついた学習内容の精選。農業と生物、化学の関連性の理解。科学のトピックスの紹介。	B	
	進路指導への積極的な関わり	課外の実施と個別指導を充実させる。農業科目のプロジェクト学習との連携を図る。	B	
英語科	基礎学力の向上	教科書だけでなく、辞書や副教材等を活用し、基礎的なところから学習できる環境を与え、きめ細かな指導を行う。	A	A ・課外の実施ボードを復活させ効率的に課外を実施する。 ・課外は学年別ではなく、英検の受験級別実施について検討していく ・資格取得を次年度も積極的に奨励する。
	モチベーションの向上	A L Tを活用し、より実践的な生きた英語を学ぶ機会を与える。	B	
	資格取得の奨励	授業中、積極的に資格取得を呼びかけ、英検対策の授業、課外、面接対策を積極的に行う。また、昨年度の反省事項でもあった卒業学年で進路が決定している生徒にも積極的に資格取得に励むような雰囲気作りをする。	A	
保健体育科	体力の向上を図る。	生涯にわたり主体的に活動できる体育学習の推進。 自己の体力に応じて目標を定め、計画的に運動を行う。 体育授業における服装指導等の徹底を図る。	B B B	B ・主体的に活動できるように、リーダーの育成に努める ・継続して服装指導に努める。
家庭科	家庭生活に関する知識と技術を総合的に習得させ、生活課題を主体的に解決する能力を養う。	実験・実習を通して技術の習得を図るとともに、心のふれあいを持ち、豊かな人間性と生きる力を育む。	B	B ・体験学習や新聞記事等の活用により、さらに興味・関心を深めさせる。
	家庭生活の充実向上を図る能力と、実践的な態度を育てる。	体験学習、視聴覚教材の利用、新聞記事の活用などにより興味・関心を高め、身近な問題としてとらえさせる。	B	